

2017年 8月 28日

防衛大臣 小野寺 五典 殿

要 望 書

日本共産党滋賀県委員会 委員長 石黒 良治
日本共産党滋賀県地方議員団 団長 節木三千代

政府におかれましては、国民の暮らしと福祉を守るために、ご努力いただいていることに敬意を表します。下記の内容について、ぜひ実現していただきませうよう強く要望します。

記

沖縄普天間米軍基地所属のMV22 オスプレイの墜落事故が、8月5日豪州沖で発生し、乗組員3人が死亡したと発表された。沖縄普天間米軍基地所属のオスプレイの事故は昨年12月、名護市の浅瀬に墜落して以来2件目。オスプレイはこの1年間にクラスAの重大事故が3件も起こる異常事態であり、欠陥機であることは明らかである。日本政府は米側に「飛行自粛」を要請したが、米海兵隊がオスプレイの「安全」宣言を出したのを受けて、飛行再開を容認する見解を発表した。さらに国民の反対の声に背を向けて北海道での日米合同演習に参加した。今後、安保法制の実施で日本列島全土がオスプレイの攻撃型訓練に巻き込まれ、命の危険にさらされるのではないかと国民・県民は不安、心配そして怒りを募らせている。

こうしたことから以下の点について強く求める。

1. MV22 オスプレイの豪州沖墜落事故の原因究明もないままの訓練飛行の継続は認められない。米軍に抗議するとともに、訓練飛行を容認した政府に対しても強く抗議する。危険な欠陥機であるオスプレイの日本からの撤去を求める。
2. 饗場野日米使用基地など滋賀県内でのオスプレイの訓練飛行を絶対しないよう求める。
3. 関連して、大津駐屯地で陸自ヘリの離発着を今後行わないこと。駐屯地

は、住宅地であり、周辺には病院や介護施設が存在している。市民は騒音や安全に強い不安を持っている。これを機になし崩し的に大津駐屯地を基地化することにつながらないよう求める。

4. 大津市上空を北上する陸自ヘリ群を目撃する日数が増えている。市民の安全と平穏な生活を守るため、住宅地の上空の飛行はしないこと。

以上